

平成 29 年度第 2 回県・市町村行政懇談会 議事録

日時 平成 30 年 1 月 18 日 (木)
午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで
場所 県庁講堂

1 開会

(小倉元気づくり総本部長)

それでは、ご案内の時間がまいりましたので、今年度 2 回目となります県・市町村行政懇談会を開催させていただきます。平井知事、ご挨拶をお願いいたします。

2 開会あいさつ

(平井知事)

皆さま、こんにちは。市町村長の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心からお喜びを申し上げます。また、それぞれの市町村におきまして心新たにこの年、どのように進めていこうか活発な御議論が始まっているのではないかと思います。この時にいたるまで大変お世話になりました小林町長、山下町長がご勇退を御表明されておられますが、本当に長い間のご労苦に感謝を申し上げたいと思います。代わりまして、西垣町長、松浦町長という新しい顔もこちらに来ていただきました。ぜひ、心新たに、また共にスタートを切れればと思います。本当は後、もう一方勇退されるというお話の人もいたんですけども、娑婆の風に当たられて色々とおったみたいでございまして、まあともかくですね、この年、ぜひ皆様と実りの多い年にさせていただければと思います。本日いくつか議題がございすけれども、若い方々の定着のこと、これも大きなテーマだと思います。鳥取県も市町村の皆さんと心をつなぐ何かですね、若い方々に鳥取県で働いてもらう住んでもらう、そうしたことをやろうと努力をまいりました。現実にも最近のデータでいきますと女性の県外大学に行った子供たちのUターン率が 40 パーセントを超えまして 2 ポイント近く上がってきております。また、県内での大学生の就職率 29 パーセントぐらいになりまして、これも 3 ポイントほど上がってきているわけでありまして、決して後退しているわけではないんですが、ただ、移住者が昨年度は 2022 人と多かったにも関わらず、なお人口減少が止まらないのは、出ていく子供たちの帰ってくる比率がなお大分低いということでありまして、この辺は我々の命運を握っている課題だと言ってもおかしくないわけでありまして、ぜひその解決を共に図っていかねばならないと思います。色々市町村の実践例もございすし県としても新年度に向けて様々な施策を考えてみたいと思っております。有意義な意見交換を経て、そうした次の展開につなげていければと思います。また、いよいよ大山 1300 年祭という年回りを迎えました。この年に当たりまして多くの方々に鳥取県を訪れていただく、そういう運動を起こしていかなければなりません。また、全国山の日大会も開催をされるわけでありまして、今、各市町村を山の日になんだ帽子をリレーして歩いているところであり、山に対する思いを県民の皆様で共有できればと思います。更に山陰デスティネーションキャンペーンが山陰一円で開催されますし、JTBの日本の旬というキャンペーンも行われます。絶好のタイミングでありまして、この機会に星空の美しさ、或いは鉄道の素晴らしさ、また、蟹や梨などの食材の素晴らしさなど含めまして、大いに売り込んでいければと思います。観光面で我々の方の境港という港も、昨年は 61 回の寄港がありましたが、恐らく今年はそれを上回るような形で大型のクルーズ船が入ってくると思います。隻数は減ってもお客様はかえって増えるんじゃないかと思われまして、また、飛行機の方でも今エアソウルが 5 便化をされて正念場でありますけれども、それのみならず、チャーターフライトや香港便など結構好調に推移してまして、昨年 1 年で恐らく 12 万人以上外国人の方が泊まれたと思われまして、それは県としては最高の宿泊客数ということになります。このトレンドをもっともって育てていければと願うところでありまして、そういう意味でも今日お話し合いをいただけたらと思います。

また、国民健康保険も新年度は新しい制度に移行しまして市町村単位から都道府県単位に移行しま

すが、保険料を定める手続き、また、実際の徴収などは市町村の方でも担われるわけでありまして、従来の枠組みを維持しながら財布を一つ大きくしてまとめてみると、こんなことかなと思っています。後ほど詳しい試算の状況もお示しをさせていただき、御相談をいたしたいと思いますが、19の市町村のほぼ、ほとんどのところは保険料の水準というものが、今年度をそのままだと下回るというようになります。それで、これ今、公費をそれぞれ皆さんが色んな事情で導入されていますが、その公費を減らして保険料水準を維持するという、そういうオプションも十分可能な状況にあります。2つほど若干上値をいくところがありますが、それも基金事業を使ったり、色々と工夫をすれば今後長い目で見ていただいて、安定軌道に乗れる可能性があるなどとも思われます。分析が必要でありますけども、そうした抑制的な状況になりそうだとすることで、国から1,700億円公費を我々が共同で取ってきたことが効果を結んでいると思われます。ですから、まずは速やかに円滑な形で移行させて現場の住民の皆様等々に混乱がないようにするのが得策かなと思われませんが、この後、御相談をさせていただきたいと思います。

ぜひ皆様とこの年をよき年としていければと思います。60年前をさかのぼれば、境港に5,000トン級の岸壁ができたりした年でございますし、50年前は鳥取駅の高架ができたり、それから蒲生峠の開通がありました。60年前は国道9号線が開通したときであります。考えてみますとそういうように節目の年に今年は回ってきたのかもしれませんが、ぜひとも皆様とよき年とするよう、私どもも全力を挙げる所存でありますので、忌憚のない御意見をいただき、一致協力してやっていければと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございました。それでは引き続きまして、深澤市長会長御挨拶をお願いいたします。

(深澤鳥取市長)

皆さんこんにちは。鳥取県の市長会の会長をさせていただいております鳥取市長の深澤でございます。どうぞよろしく願いを申し上げます。平井知事はじめ、県の皆様、また市町村長の皆様には日ごろより大変お世話になっておるところでございます。改めまして、この場をお借りしまして感謝を申し上げる次第でございます。また、今年度第2回となります鳥取県・市町村行政懇談会ということで、このような機会を与えていただきましたことに感謝申し上げます。今日の議題は若者定住、観光振興、これは地方創生の取組であると思っておりますし、また、国保運営の方針についてということであります。国保制度につきましては御案内のように、いよいよ来年度から財政責任の都道府県化ということで新たな形でこの制度がスタートすることとなったわけであります。何よりも円滑な移行ができるように市町村も一生懸命、県の皆様と一緒に、この制度が安定的に運営されるよう、また、負担の公平化が図られるよう将来を見据えてしっかりと取り組んでいかなければならないのではないかと、このように思っておるところであります。

また、地方創生の取組につきましても、いよいよ3年度目ということで、中間年に差しかかってくるわけあります。これまで我々が取り組んできたことを今一度検証しながら、また、更に将来を見据えてこの取組を続けていかなければならないと、息の長い取組として、これからも県の皆様と一緒に全県的に進めていきたいと、このように思っておるところでございます。若者定住につきましても、鳥取市におきましてもこれがなかなか非常に大きな課題になっておりまして、どうしても県外に転出をされると、そのような状況が続いておるところであります。これを何とか食い止めていきたいということでありまして、これも1つの自治体だけではなくて圏域の皆さん、近隣の皆さん、また県の皆さんと一緒に色んな方策を講じていくということで効果が出てくると考えておるところでございます。1年が始まりまして、いよいよ、早いもので1月も後半になってきたわけでありまして、色んなことが動き始めたように思います。今日のこの会が、様々な取組がこれから力強く前進をしていくその契機となる会となりますことを期待いたしまして御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いを申し上げます。

3 議題

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございました。本日御用意しています議題3件でございます。一括して説明させていただいた後に御意見をお伺いしていきたいというふうに考えております。よろしく願いいたします。それでは1番目、若者の県内定着についてということで資料1をご覧ください。本県の移住定住、人口減少の喫緊の課題であります若者の定着と移住、相変わらず転出超過という事態は変わっていないところなんですけれども、転出を見ますと昨年度と比べると若干緩和された感はあるところなんですけれども、いかんせん10代、20代の転出というのが大きな課題であるところでもあります。中ほどを見ていただきますと、県内の大学の卒業生3割しか県内に就職してないということ、また、高校生を見ましても5割は県外に進学しているといった状況下にあることは事実であります。また、有効求人倍率を見ますと、全国平均を上回る1.66倍、非正規職員に至っても1.09倍ということで職の方は全体としてはあるにしても職種によっては人手が足りなくて深刻な状況にあるのも、これもまた事実であります。

そんなことで3ページ、4ページにまとめておりますけれども、まず、転出に歯止めをかける取組を展開していかなくちゃいけないということであります。学生の方々に意見を聞くと、県や市町村でも色々な情報は流しているんだけど、ほんとに学生がキャッチされるような情報になっているのか、スルーしているケースが非常に多いということを実感として思っております。そんなことから学生目線で学生の方に情報を流していくような手法をどんどん展開していくことはできないかということで、今、考えているところであります。また、県立ハローワークでございますけれども、これも全県下に展開していきたい、高校生のキャリア教育、地元に残るんだというようなことも合わせてやっていきたいというふうに思っております。

また、転入を増やす取組でございますけれども、マイナビを活用した県内企業の魅力発信、これを展開していく、また、最後のページでございますが、県内に定着させるように産官学が一丸となって取り組んでいくとっとりインターンシップというような取組を、市町村の皆様、業界の皆様と一緒に取り組んでいきたいというふうにも考えております。また、県内定着に有効であります未来人材育成基金、この対象を今年度から拡大したところでございますけれども、この活用定着に向けた動きなど、これからも市町村の皆さんが行っておられる独自の取組と合わせて、県も一緒に移住定住定着の促進を図っていきたいと考えております。

続きまして、資料2をご覧ください。観光振興についてでございます。冒頭知事からも挨拶ございましたけれども、本年度は大きな観光振興のチャンス年だと思っております。2つの大きな柱がございます。1つはアクセス性、周遊性がこれまでとは違って、大きく飛躍的に伸びてくるということでもあります。1つには瑞風の山陰ルートが非常に好評であるということ、また、天地(あめつち)、昭和などの話題性の高い列車が走るようになるということ、また、大型クルーズ船が昨年にも増して入ってくる、本当に県内外にまた海外からのお客様がどんどん入ってくるような年であると思っております。また、鳥取砂丘コナン空港も7月に一体化のグランドオープンがなされる、海と空の駅ができるというようなことで大きな変化をもたらす、そんなツールが整ってくるというところでもあります。また、大規模イベント、全国的なキャンペーンが展開される年でもあります。大山開山1300年祭、山の日記念全国大会、これは全国に訴えかけ、全国から人を呼ぶ、国外から呼ぶ、そんな祭りであり、大会であるというふうに思っております。

また、山陰デスティネーションキャンペーンでございますが、2ページを見ていただきますと中ほどに書いておりますが、山陰地域へ全国規模で誘客キャンペーンが行われるということでもあります。国内大手の旅行会社が集中的に山陰地域のツアーを商品企画する、そんな年が30年あります。ぜひこの機会を使って県・市町村考えておられるような事業、中身、おもてなし等々発揮することができればと思っております。いずれにしても、県だ、市町村だという時代ではございませんので、ここはしっかりとスクラムを組んで取り組ませてもらいたい、そのための事業展開なり、役割分担なり、そこは御理解をお願いしたいというふうに思っているところであります。また、地域の魅力向上の取組

ということで航空便ですね、国際便、米子ソウル便、米子香港便、5便、2便と展開されております。ぜひ、これらを活用した新たな商品づくりであるとか、インバウンドの増に向けた取組を一緒に行っていただきたい、また受け入れ環境の整備の方も多言語化であるとか、Wi-Fiの整備等々一緒に取り組ませていただけたらと思っております。それでは議題の3番目の国保の運営の方針について福祉保健部長から説明をいたします。

(藤井福祉保健部長)

それでは、資料3で国保制度に伴います30年度からの国保運営につきまして御説明を申し上げます。平成30年4月から向けまして市町村とも協議をさせていただきながら準備を進めているところでございます。1ページの1に概略を記載しておりますが、今回の制度改革に伴いまして、合計で3,400億円の国費が新たに投入されることにより、保険料で集めるべき額は平成28年ベースと比較いたしまして県全体で約4億円減額される見込みとなっております。はぐっていただいて2ページに、30年度の納付金等の算定結果を示しておりますが、各市町村では、この額をベースに保険料を決定されることとなります。保険料で集めるべき額を平成28年と比較いたしますと、一部2市で若干上昇する以外は各市町村で下がる傾向にありまして、2市でも収納率の上昇等で対応いただけるというふうに向っております。結果といたしまして、多くの市町村では現状の保険料を維持されても一般財源や基金の繰り入れを抑制することが可能な状況になっているというふうを考えているところでございます。具体的な算定手順につきましては、3ページの下に挙げておりますが、上段で激変緩和措置ということを記載しております。今回の制度改革に伴いまして、保険料で集めるべき額は一定割合以上、年で1.5%、ここ2年間比較で3%以上というところ、線を引いておりますが、特に今回の制度では納付金を所得シェアで各市町村にお願いをする関係で、所得係数が高いところは制度変更に伴いまして上昇するということがございますので、この激変緩和措置等を適用いたしまして、平成30年度ベースでは約2.5億を11市町村に配分をさせていただいたところでございます。

戻っていただきまして1ページを改めてご覧いただければと思いますが、2点目の今後の国保運営について御説明をさせていただきまして御意見伺いたいというふうに向っております。1、2の方にも記載しておりますが、重要なのは健康づくりや各種検診による早期発見、早期治療など、これまで市町村でも取り組んでいただいておりますが、それらを通じた医療費の適正化に努めることでありまして、県や市町村においても今後更にもどのように取り組んでいくべきかということについて、ぜひ御意見をいただけたらと思っております。

また、今回の制度改革に伴いまして全国的に見ますと、一部の府県で保険料の統一に向けた動きが具体化をしておりますが、当県におきましても様々な御意見をいただいているところでございます。ただ、実施に当たりましては③の方に記載をしておりますが、医療費をどのように反映させるかという係数でありますとか、或いは収納率、算定方式が各市町村で現状異なっているというところもございいます。他県の状況も確認しながら検討を進めてまいりたいと思っておりますけれども、今後の方向性について各市町村からも御意見をいただけたらというふうに向っております。最後に⑤のところへ挙げておりますが、国庫負担金の減額措置の関係でございまして、この4月から就学前の小児医療費の関係については除外をされたところでございますけれども、障害者医療等含めまして全廃に向けて引き続き国に要望してまいりたいというふうに向っております。具体的な減額措置への対応につきましては、県内の市町村におきまして、現に保険料で対応されている自治体も過半あるということや、或いは国のほうで原則として保険料等を財源といたします納付金として賄うことが想定されていること、或いは一般会計繰り入れが抑制可能な環境になりつつあるというようなことも踏まえまして、平成30年度につきましては県の特別交付金、調整交付金を減額措置の4分の1に充てることといたしまして、今後については状況踏まえながら引き続き検討させていただきたいと思っております。今後の国保運営につきまして、関連資料4ページ、5ページのほうに挙げさせていただいておりますのでご覧いただけたらと思っておりますが、4ページの下に参考で27年度、28年度の一般会計繰り入れの動向を、これ県全体でございまして挙げしております。ここでは各種公費の関係もございまして、特に医

療費の関係で高額な薬剤の薬価が切り下げられたというようなことで、医療費総額が減ってきたことも効果として出ているというふうに考えているところでございます。説明以上でございます。

(小倉元気づくり総本部長)

それでは、ここからは各市町村長さんの御意見をお伺いしたいと思います。まず移住定住定着について、御意見、御提案がありました深澤市長様から口火を切っていただけたらありがたい。全体を通して御意見をお伺いしたいと思います。

(深澤鳥取市長)

はい。若者の県内定着であります。これは冒頭、先ほど申し上げましたように、鳥取市もこの人口減の要因を色々分析してみますと割とはっきりしておりまして、それは若い世代の市外、県外転出ということでもあります。これを何とか食い止めることによって人口減少を食い止めることができるのではないかと、色々やっているわけですが、なかなか容易でないという状況があります。そうした中で鳥取市版のワーキングホリデー、こういったものをやりまして多くの皆様いきなり移住というのはなかなかハードルが高いということで、まず鳥取の暮らしやすさ、魅力を感じていただくということで、比較的短い期間で、2泊3日ぐらいでありますけれども、鳥取に来ていただいて鳥取を体験していただくと、そのことによって将来鳥取もいい所だなというようなことで思っていたかと、そのようなことを今やっております、引き続きこれは続けていきたいと思っております。

また、宝島社の住みたい田舎のランキング、総合部門4位ということでありますが、鳥取市はその中で若者が住みたい田舎第2位ということで、これは評価いただいたのかなというふうに、大変ありがたいと思っております。また、この鳥取は意外と若い世代の方が自己実現を図っていくと、やりたいことをやっていくということに何か非常にいい地域だというような評価もいただいておりますので、そういったこともこれから大いにPRをしていきたいと思っております。また、これは移住定住でありますけれども、鳥取の出身の方に引き続き鳥取に定住をしていただいて活躍をしていただくために、例えば小学生、中学生、高校生の皆様にも、この鳥取にはこういった素晴らしい事業所、企業があるんだと、こういった素晴らしい製品を生産しておられる、そのことをもっと広くアピールをしていきたい。将来はこの鳥取で活躍したいなど、そのように思っていたかのような、そういう取組もしていきたいと思っております。地元企業の社会見学等も、これも一層力を入れていきたいと思っておりますし、これは鳥取市だけではなくなかなかできませんので、県の皆さんとも一緒になって、色々なお知恵も拝借しながらやっていきたいと思っておりますのでよろしくお祈りを申し上げます。とりあえず若者定住だけにしておきますのでよろしくお祈りを申し上げます。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。続きまして西垣岩美町長お願いできますか。どこの分野でも構いませんので。

(西垣岩美町長)

若者の県内定着という部分なんですけれども、我が町、平成28年度、前年度は全体的に社会増減3名、わずか3名でありましたけれども、プラスに働いております。中身を見させていただくと、130名の移住者の中で105名、約8割の方が20代、30代の移住ということで、ほんとにありがたいなと思っております。これはやはりアニメのFree!の関係とかが一番大きいのかなと思っておりますけれども、ただ、残念なことに、平成29年9月までは社会増減、転入のほうが多かったんですけれども、現時点では若干マイナスに働いております、これ3月までに何とかしたいなということで考えております。この度、鳥取県さんの方にも大変お世話になるわけですが、新橋にありますとっとり・おかやま館、こちらで今週末に移住定住相談会を行い、私自身も出向いていってちょっと町のPRをする中で、移住に直接は結びつかないかも分かりませんが、やはり町に興味を持ってい

ただ、我が町に興味を持っていただくっていう取組からまず始めてみたいなということで出向くようにしております。ただ、学生について言えば、残念ながらどちらも一緒なんですけれども、やはり外に出てしまう、出てしまったら帰ってこない、この現状がありますので、何とか県さんとも色々とお話をさせていただく中で、有効な手立てをとりたいなと思っているところでございます。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。続きまして若桜町長お願いします。

(小林若桜町長)

若桜の最近の状況でございますけども、移住定住、少しずつでございますけども、移住定住相談センターをこしらえましてから相談業務もすごく多くなりまして、少しずつ効果が出てきておるところでもございまして、最近では移住定住に來られた方が2人目、3人目の赤ちゃんができるようになったりいたしまして、ちょこちょこ広報わかさに載ってきていまして、皆さんが喜んでおるところでもございますし、わかさこども園でございますけども、定数がもういっぱいになってきますので、新年度1億5,000万円ぐらいかけまして、給食室を保育室にいたしまして、また、給食室の新しくいいのを併設したりして、環境整備を整えていきたいなということを思っております。実はこの間も、1月6日に奈良から來られたんですけど、なぜ若桜がいいんですかとお聞きしたら、色々若桜にもお試し住宅に泊まったりもしたんですけども、若桜の方はとても親切で優しかった、だから決めましたとおっしゃいました。私、來られるときには大抵町長室に案内してくださいと言って、私の所に来て、子供さんとお話をするんですけども、そういう話が出てきたりしまして、やはりしっかりと若桜の何かを、迎える気持ちを出すのも非常に大切かなということを思っておりますし、最近では、28年度は転入転出、社会増減は拮抗してまいりました。また29年はちょっと押さえてないんですけども、地道にコツコツとやはり外に出て、相談員は常に外の方に、県外に出たりもしましてやっているわけでございます。そういう面でも、非常に私たちも喜んでおるところでもございまして、やはり若桜に來られて、一番初めの印象の保育料、それから例えば園児服、体操服、全部無料というようなことは結構効いておるようでもございまして、これからはしっかりと頑張っていこうかなと思っております。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。続きまして智頭町長お願いいたします。

(寺谷智頭町長)

はい。これは私どもの町だけじゃなくて、移住定住っていうのは非常にこの悩ましいテーマだと思っております。若者に外に出るなどと言っても、やはり若い人は大きな大海を見るのもまた勉強でしょうし、それから、いらっしゃい、いらっしゃいと言っても、やっぱり何かがないや、魅力がないや来ないというテーマの中で、ある程度その思い切ったことをやらないと移住定住っていうのはうまくいかないんじゃないかということで、先般もここで言ったかもしれませんが、定住に対しては若者が外に出ないのを調べてみますと、自分の家に土地がないと。だから、アパートを借りて外に出るというような経過がありましたんで、もう今から何年になるでしょう。6年ぐらい、5、6年になりますかね、塩漬けになっている土地があります。ずっと町有地ですけども使っていない、そこを無償で提供すると。それで条件は無償だけでも、建物を建てる時は地元の工務店を使いなさい、智頭の杉を使いなさいということでやりましたら、3名の若者が定住して、そして3名が結婚して6名になった。6名が今度は子供ができて今9名になっております。それで、かなり荒っぽい手法だと思ったんですが、議会とも色々ありましたけども、そういうことをやって、それから智頭町は93%が山ということで平地が少のうございまして。それで、たまたま鳥取自動車道が出來たときにトンネルを埋める、トンネルから出た残土を、町が山を買って、そこに、山の中に埋めていったと。それで、かなり広い平地が出來ました。それで、今、1、2、3棟、3棟平地に建っております。あと20棟ぐらいは建てるス

ペースがありますので、今、考えておるのは、その町有地に町が建物を建てて、移住者に対して 20 年間住んだらもう無償であげますよと、やっぱりある程度腹をくくらないと、ということで、そういう計画をこれから進めようということ。それから、最近、都会からどういう訳か山をやりたい、山林をやりたいっていう人が、若者が出始めました。これ、女性も含めて、オペレーターみたいなこともやりたい。そうしますと、同じ山をやらせて、地下足袋の履き方と、チェーンソーの使い方を教えて、はい、さようならでは全然色気がないと。本気でやるなら、町有地と同じように町有林も無償であげましょうと。それで、今、自伐林家の若者が 10 名ぐらいいますので、テストケースで、その彼らにも無償で提供する。そこで技術を磨いて商いを覚えて、そして次のステップに移るということで、まず東京とか、都会から来た若者はいっぺんには林業できませんので、たまたま鳥大の林学を出た先生に、教授に智頭町にもう移住して来ていただいて、その方に山のノウハウ、いろはを若者に教えていただいて、山に慣れさせて、そして、自伐林家の若者と合同させて、その彼らにも町有林を一部無償提供すると。それから、いわゆる山っていうことはあまり派手でないので、派手なファッションをしると、いわゆるファッションから入ろうということで、あれ、オーストラリアでしたか、智頭町も行かせていただいて、若者を、そのときに見た写真が、林業をやっている方がカッコいいんですね、何かこうファッションが。だから、要するにファッション性を重視してカッコいいファッションで町を歩けと。農林の子供たちでも、こんなだったら俺たちも山に行ってもいいなっていうぐらいの、そういう奇抜なことをやろうというような、あれこれ考えて、移住定住っていうチャレンジをしておる最中でありま。以上であります。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。続きまして八頭町長をお願いします。

(吉田八頭町長)

八頭町でございます。うちの方も、相対的には社会減ということが、減りつつあるというところがあります。1 番、2 番は地方創生の取組ということでありますので、移住定住という面から少しお話をさせていただきたいと思いますが、八頭町では総合戦略の 1 つに八頭イノベーション・バレーの創出ということを掲げさせていただきました。この八頭イノベーション・バレーの創出というのは、新たな雇用の場、さらには空き校舎、合併いたしまして、小中学校の統合ということがございまして、そういった中でその空き校舎を活用したサテライトオフィスの開設ということであります。相対的には情報関連の企業誘致ということになりましようか、そういった皆さんや、それから起業家でありますとか、クリエイターなどが活躍できるまちづくりを行おうというのが目的でスタートしたものであります。また、やはり学校ということであれば地域の皆さん方の交流ということも大事でございまして、そういった面では、その施設の中にコミュニティスペースというような部分も設けさせていただいたというところがあります。それから施設については町の方で改修をさせていただきましたが、入居予定の企業の皆さん、施設運営を行っていただきたいというようなことで、運営会社を立ち上げていただいたというような経過もございまして。先般、12 月 10 日に開所をいたしたわけですが、そういった中で、先ほど申し上げましたが、1 階には多くの皆さんに利用していただきたいというようなことで、カフェでありますとか、それからイベントスペース、それから、今、福祉のまちづくり委員会ということを町の方では推進しているわけですが、そういった委員会の皆さんに入っていくスペース、そして、また県の看護協会、訪問看護サテライトステーションですか、そういった事務所も併設するような形にさせていただきました。それで、2 階、3 階が、それこそ、シェアオフィスということでありますし、それから 1 日単位でも利用できるワーキングスペースというようなことも設けているところがあります。K P I ということで当初 5 社ということで予定いたしておりましたが、今現在、運営会社も含めまして 11 社の入居予定ということであります。

そういった中で町内の出身の方、関東で活躍しておられる方ですが、2 社ほど起業もさせていただきまして地元の皆さんの雇用というようなことにもつながっているというところがあります。そ

れこそ、企業の皆さんとそれから地域の皆さん本当に一緒になって地域を盛り上げていただけたらというふうに思っておりますし、それこそ新たな取組が生まれればというふうに町としても期待をしているところであります。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。続きまして倉吉市長お願いできますか。他の分野でも。

(石田倉吉市長)

若者定住という面では、倉吉も御多分にもれず、転入がなかなか伸びないという状況があるわけがありますけれども、特に28年、29年、これ、ひょっとしたら地震の風評被害的なものもあるのかもしれないかもしれませんけれども、それ以前に比べても転入が減っているという状況があります。それで、これからどういうことに力を入れていくかということになると、やはり地元の企業の情報をしっかり都会の大学に入っておられる方々に届けていくということが大事なんじゃないかなというふうに思っています。県の施策に挙がっていますインターンシップ、こういうものにやはり力を入れていく必要があるんじゃないかというふうに思っています。それで、地元の企業の中でも、このインターンシップに取り組んでおられない、或いは関心を持っていただいてない企業もたくさんあると思いますので、そういう地元の企業に対するPRというか、てこ入れもしっかりやっていく必要があるのかなというふうに思っています。それと、もう1つは、実は今年の成人式でも新成人の皆さん、色々決意表明をさせていただく中で、大学を出たら、県外の大学に通っている人が非常に多かったんですけれども、そういう方でも大学を出たら、ぜひ、地元に戻って来て就職したいという方が非常に多かったんですよ。ただ、なかなかそれが現実のものになっていないということが多分あるんだろうというふうに思っています。そういう意味でいうと、そういう大学の進学の情報を持っておられるのはやはり高等学校が一番持っておられるんじゃないかなという気がします。そういう意味で高等学校の中に、高等学校を卒業した人に対する、そういう就職情報を提供するような同志というか、担当の先生っていうか、そういうものを高校生だけでなく高校を卒業した学生さんなどにも提供できるような体制ができないものかなというように気がしておりますので、教育委員会の中でも御検討いただくとありがたいなと思っております。

それから、観光ですけども、今年はDCがあったり、非常にチャンス的一年だというふうに思います。倉吉の場合は白壁土蔵群についてみると、お陰様で地震の風評被害も大分解消してきたのではないかなと思っております。数字的には観光施設が閉館していた施設もあったりして数字的には伸びていない状況はあるんですけども、全体としてみるとかなり回復してきたのではないかなという感触を持っております。この際、新しい観光拠点施設もできてきていますので、こういうものを活かして、倉吉としても観光地づくりというものに力を入れていきたいというふうに思っていますので、ぜひ、県の御支援をお願いできたらというふうに思っております。

それから、国保については、まずはやはり問題なくスタートしていくことが大事なんじゃないかなというふうに思っております。住民の皆さんにとってみると、不安がある中でスタートしないように、大きな問題なくスタートしていただくことが大事なんじゃないかなと思っております。その上で幾つかやはり課題が残っていると思いますので、そのことについては、ぜひ、県としても、改めて御検討いただければありがたいなと思っておりますのでよろしく願いをいたします。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。三朝町長さん。

(松浦三朝町長)

若者の県内の定着についてですけど、うちの場合は、もともと雇用の場が少ないというのもありますし、若い人に合うようなところも少ないと。そういう意味で、やはり中部の圏域とか、県内全域で

考えていくと。それには連携をしながら、雇用の場を確保していくというのは大事だというふうに思っております。若い人に出ていくなと言っても、大学に出て、自分たちのそれぞれ夢があるわけですから、それは難しいと思っています。ただ、いつのときか帰っていただくような環境をつくっていく、故郷との縁を切らんようにしていただくという普段のつながりが大事ではないかというふうに思っています。色々な定住に対しての支援措置も講じていくわけですが、特に家族の中で、家庭の中で仲良くしていくことを少しこれから町民の人にお話をしていこうかなと。親子で喧嘩をするなど、お爺さん、お婆さん、若い人の意見を聞いて昔のことをあまり押しつけずに、自分たちもそういう気持ちになって仲良く過ごしてもらえれば土地もあるし家もあるし、住みよい生活があれば帰ってくるかも分からないので、そういうことも啓発をしてみたいと思います。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。湯梨浜町長お願いします。

(宮脇湯梨浜町長)

若者の県内定着についてでございますけれども、実は、この12月に地方創生の総合戦略、まち・ひと・しごと総合戦略の委員会を開催するに当たりまして、今年に移住、転入、転出の状況はどうかと確かめましたところ、11月末現在で33名のプラスだということを報告されまして、いつも3月、4月が大体減ったりするのが多い時期ですから、ちゃんとそれが入っているんだろうと言ったら、ちゃんと11月から暦年で1年さかのぼりましたので大丈夫ですと言ってくれましたので、近年、湯梨浜町はマイナスに転じて、この3年ほどしていたものですから、久しぶりにプラスになって明るい要素かなと思っています。その理由として考えられるものとしましては、1つありますのが小さな話ですけれども、35歳未満の世帯が住宅を建築したり、購入したりする際の支援というのを単町で50万円という制度を設けております。これ、昨年から設けてやっているんですが、昨年は50件程度だったものが、今年は70件以上に多分なるんじゃないかと今の状況で思っております。その内訳の中に町外の者が半分以上含まれているというようなことが要素の1つかなというようなことも感じているところでございます。

それと、やはりこれをきちんと移住定住促進していくには、先ほど三朝町長さんがおっしゃいましたように故郷教育といいますか、故郷を知って愛していく、地域の人たちと係わりを持って愛していくという、そういう子供たちを育てることも大切なことだと思って、その辺りにもちょっと力を入れて東郷池の生き物の本ですとか、湯梨浜の鳥の本ですとか、そういうことを冊子にしてそういう方面の愛好者の方たちに出版していただいたりするということもございます。大きな目で見まして人口という面からいいますと、今、CCRCに取り組んでおりまして、これの4ヘクタールの部分にサービス付き高齢者住宅なり、或いは一般住宅、そして町営住宅の老朽化したものの一部を盛り込むような形の整備をとということで、この3月に基本設計がまとまります。その時期に合わせるわけではありませんが、来年の4月からは新しい中学校が開校しますので2つの中学校が空くこととなります。そういったものの兼ね合いもあって、一つ、一皮むけてまた、いよいよアクティブシニアを迎え入れる戦略を本格化できる時期、PR時期になってきたのかなということを感じているところでございます。

観光振興につきましては、昨年、地震で知事さんにも大変お世話になりました対策を講じていただいておりますととてもありがたかったですけれども、今年状況で言いますと、当然のことながら増加しております、11月末現在で、これは暦年で比べてみますと28年が15万7,909人であったものが15万9,383人ということで1,474人ほど増えております。これは旅館の宿泊客です。12月分はまだですので、12月も相当影響ございましたから、もっと回復してくるものと思っております。

それから、最後の国保についてですけれども、短い期間の間に県の担当部局の方もここまでまとめられて大変だったと思っております。感謝申し上げますとともに、一つちょっと思っておりますのは、こうやって県で1つの場所ができた。町村ごとに、私、湯梨浜町は、ジェネリック医薬品なんかは何年前に全国で6位になったことがあるんです、全国の自治体なんかで。それで、そうやって薬剤

師会や医療機関も頑張ってくださっているのに何でうちの医療費は高いんだらうと、1人当たりのがというようなことを話したことがあります。それは大きな病気にかかる、病名は申し上げませんが、もう1人でも年間何百万円もかかるというようなことがあると、当たり前のことですけど医療費は多くなると。それともう一つは、昔、医療費が増えて何とかしようということで、よく自治体と医師会あたりと医療費の適正化ということで議論をしたときに、自治体側が言われる医療費というのは、医療費の適正化というのは医療費を減らすことか、それとも適正な医療を行うことか、どっちなんだということを言われたことがあります。なるほどなと思いました。そういうことから考えますと、さっきの大きな病気をやるとお金がかかるということもありますので、やっぱり健康寿命を伸ばす取組をやっていくことが根っこに重要なんだらうなと思って、今その方法はないかなというようなことを考えているところでございます。以上でございます。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。琴浦町長お願いします。

(山下琴浦町長)

琴浦町です。賞味期限が僅かでありませぬけども、最後まで頑張りますのでよろしくお願いを申し上げます。まずはじめの件でありますけれども、私は今年の成人式の挨拶は、とにかく琴浦町で生活をしてくれ、帰って来て活躍をしてくれということをお願いしたのが1点と、もう一つは、琴浦町はこれ琴浦企業ガイドということで53社のこういう冊子を作りまして、そして、保護者、本人にも配ったりしてそういう活動しております。そして、高校生には進学奨励金として5,000円、それから大学生は大学生進学奨励金毎月8,500円という形で、今、制度として取り組んでいるところであります。

それから観光面では、実は、「とっとり琴浦グランサーモン」という、そのサーモンにつきましては、国際的な認証取得、国際的にその商品が安全で品質が高いものであるということ、そういう国際的な認証取得を取るようなそういうことを地方創生のメニューの一つとして位置付けて、30年度取り組むということになります。それと、具体的には大山乳業でありますけれども、東京の日本橋に営業所を開設すると、経過としましては3年間ほど地方創生のメニューで東京の方に人材を送り込んで活動してきたということの延長線上でそういうことを組んでやります。それと大山乳業の取組につきましては、中国地方のローソンのまぢカフェでは大山乳業の乳製品を扱うということ、その効果は1カ月に9,000トンの乳量が必要になるということで供給をしております。従いまして、1リッターの牛乳のパックでいうと9,000本のそういう効果があるということになります。これもやはり地方創生の取組の一環の延長線上でそのようなことになってきております。

それから、最後の国保の関係でありますけれども、町といたしましては県の努力を高く評価をしたいというふうに思っております。今段階で琴浦町としては、平成30年度の国保の保険料は、据え置きで検討しています。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。続きまして伯耆町長よろしいですか。

(森安伯耆町長)

私の一番の関心事は、実は国保の広域化ということでしたので、非常に細かい数字を積み上げられて色々市町村の事情が違う中で、ここまである程度水準を並べられてこられたということに感謝しています。知事のリーダーシップがあってこそだと思いますけども、非常に丁寧にやっていただきましたので、このままあまり、それぞれ程度の差はあるでしょうけども、いいスタートが切れる土台ができたと思っております。若者の定着ということで、ちょっと自分の足元を見てもあまり若者が定着してないなというのはあるので、あまり大きなことは言えませんが、外に出てみたいという意識というのは、もうこれ必ずあるのでなかなか新卒段階から、あの中でのということを講じることは必要と

しても、あまり成果を高く求めるというのは難しいんじゃないかなというのが感想としてあります。

ただし、最近特に身近な相談を受ける機会があるのは、都市部に出ていったんだけど、何かあまりうまくいってないみたいだし、帰らせたいんだけど、どこに相談したらいいんだろうかみたいな、親御さんのちょっとした嘆きみたいなものを聞く機会があります。帰らせてやりたいんだろうけど、だからといるし、または帰るきっかけがないとか色々あるんだろうなと思ってお聞きして、なかなか私もそれに対して適当なサジェスションができないんですけども、今回入れている資料の中の、やはり長期有償型のインターンシップ等の導入というようなものについては、ぜひやってみたほうが良いなと思うし、それから、去年の段階でワーキングホリデーが制度化された時点で町内企業に対してワーキングホリデーの取組意向を調査したところ、その時点では3か月ぐらいではちょっと無理かなみたいながありましたけども、その後1年間で、いわゆる採用する側にとって急激に雇用情勢が厳しくなったということがあるので、もう1回ここら辺りについては企業の声を聞いてみたいなと思っています。その上でお願いとしては先ほど申しましたような、既に就職した子供たちに対する親御さんのジレンマみたいなものがあるので、できれば県立ハローワークっていうものは求職者だけでなくてそういう親御さんの相談にも丁寧に当たりますというような情報発信をいただければ、ちょっとは気が楽になるんじゃないかなと、成果は別として。そんな気持ちで期待を申し上げたいと思います。

あと観光振興、大山 1300 年ということで随分取組が広がってきたことを評価していますし、なかなか難しいものだと思います。宗教的なひっさいも若干ありますし、どこまで大きな旗を行政として振れるのかなというようなことを考えながら向かっております。ただ、町内の状況を見てみると新しい観光のスタイルというか、古い型の会社の保養所をリノベーションをしてペット同伴で3泊ぐらいしてもらって、その間、散歩とか、大山周辺を散歩するみたいなそういうスタイルを目指しているような、これ県外の方が今やっているんですけども、それと以前にも御紹介したような、キャンピングですね、グランピングっていうスタイルとか、そういうので移住をしながらこういう観光振興に自分のしたい観光振興に取り組むような方っていうのは実際出てきていて、これらに対して、僕としてはWI-FI の助成をしたりとかいうことをやっていますけれども、本当は、あんまり本当ね、こうしてくれてなかなか言わないんですよ。もしかしたら要らないのかもしれないし、分かりませんが、そういった新しい観光を試行するような方々に対しての、行政としてのサポートのあり方みたいなものは、県と一緒に考えてみたいなと思います。

あと、大手の業者の中からはバス料金のことを、大きなホテルとかなんかについてはバス料金のことをやっぱり未だにおっしゃいます。運転手不足でバス料金が上がっているのになかなかツアーが組んでもらえないと。以前あったようなバス料金のお手伝いとか、そういったものがもうちょっとレベルアップできると効くんだろうけどなというような、これも確信のない話で申し訳ないんですけども、そういった声は耳にしております。あともう一点、観光振興で申し上げるとすると、知事に随分頑張っていただいてチャーターも含めて定期便も含めて増便をされて、そのような中で訪れられる海外の方、特に中国の方ですけども、若干富裕層に近いような方々に対する特定のサービス、着地型のガイドさんですね、それを始めた中国人が町内にいます。広がるんじゃないかと本人は言っておりました、一昨日お会いしたんですけども。そんなスタイルが次々できてこようとしているので一自治体としても、むしろ県にもお願いしたいですけども、私たちとしては特に意欲をそぐことなく、その言語の対応ですとか、役割ですとか、人を採用するサービスに対してお手伝いを一緒にさせていただきたいと思っています。よろしく申し上げます。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。続きまして米子市長お願いできますか。

(伊木米子市長)

私からは、各市町村の町長さんたちが既に言われたことにつきましては割愛をして、まだ言われていないことについて手短かに1つずつ話をしたいと思っています。まず、若者の県内定着についてです

けれども、決して盲点というわけじゃないですけども、十分でなかったこと、或いはちょっと時代が変わってやり方を変えなければいけないと思っていることは、地元の高校、或いは高専に対する働きかけであります。県内就職率が低いという状況、これは資料の中でも数字でお示しいただいているところなんですけれども、かつては、今までは県内就職をお願いをしますと、相手から返ってくる言葉は、ぜひ県内にもちゃんとした就職先を確保してくださいという反応だったんですね、ところが御案内のとおり、今や求人倍率、有効求人倍率が非常に高い状態の中では働く場所はあると、あるけれども、やっぱり都会に流れていくと。この現象をどう捉えるかなんですが、中には先ほど伯耆町長さんも言われましたけども、都会志向の子供さんは、これはもうある程度しょうがないと。しかしながら、いわゆるミスマッチじゃないですけども、本当は地元で就職したいんだけど、何となくこう、魅力的な就職先がないように見えて、それで県外に流れていく。このような生徒さん、学生さんをいかに地元に取りとめるか、これは都会の優良企業は本社ごとこちらに来られるのに対しまして、地元の工場を持っている大手企業などはなかなかこの人事政策として、こういう地方まで手が回っていないのかなと、そこをお手伝いする余地があるのではないかと、つまり米子で、或いは鳥取県で生活しながら仕事をすること、それは単に就職口としての魅力だけでなく、生活全般としての魅力も十分あるんだと、例えば額面的な給与が都会の企業より低いとしても、いわゆる住居費含めた可処分所得では決して見劣りはしない、或いは自然豊かになっていう切り口でいえばどこも共通していると思いますが、色んな豊かな生活もあるという、生活全般のアピールをしっかりと学生さんたちに行きつけようとする必要があるだろうと。それで、今までその就職が少なかった時代にそれぞれの先生方が頑張っていて都会の企業とパイプをつくりながら就職口を探してこられた現状があります。ですので、いきなり過去からの人的関係、結びつきを無視して、ぜひ今もう米子でなんてことを言ってもなかなか難しい面がありますから、そこは上手に、徐々に切り替えてもらえないかということ働きかけていこうと思っております。それで、幸いなことに今、高専の校長先生も地元での就職というものを重視してくださっております。そこは我々もチャンスと捉えて、もし県の皆様と一緒にできることがあればやりたいと思っております。これは企業誘致に比べると予算があまりかからないと思っておりますので、それに対する効果というものはそれなりにあるのではないかなと思っております。それが1点です。

それから観光振興につきましては、今年はとにかく1300年祭のメインイヤーということで、これを、皆様と一緒に成功に導きたいというのが1点でございますが、米子市単独の考え方としては、これは共通するところもありますけれども、1300年祭以後も県内観光、市内観光が継続的に行われるように、どのような工夫をすることができるか、ここを今、並行して考えているところでございます。例えばですけども、米子市は今まで観光に対して力を入れているようではなかなか効果が上がってこなかった。例えば、小さな工夫ですけども、米子市内の通りに名前をきちっと通称なり、愛称なりをつくって街中を歩きやすい形にする。これは、実は既に県道で1本、御協力いただいた件がありますけども、医大の前の通り、ここを医大通りと、これ地元の人はそう呼んでいるんですけども、どこにもそんな表示があるわけではなく、単なる何ていうのですか、通称レベルということでしたけども、これを表示にも移して医大通りというものをこの県道に名前を、冠をかぶらせていただきました。こうした動きはこれからもやっていきたいと思っておりますし、市内の道路というのは市道も県道も国道も混在しておりますので、それぞれに調整を図りながら進めていきたいと思っております。また、エアソウルの週5便化というものも1つの機会と捉えたいと思っておりますし、香港便も順調でございます。それから、東京便につきましても機材の大型化787の就航もございまして、この空路、空の路線を生かしたのもしっかりと頑張っていきたいと思っております。これまでのところ、本当に鳥取県さんにこの航路につきましては大変なるお力添えをいただいたことをこの場でお礼申し上げたいと思っておりますけども、これから米子市も一緒にしっかりと頑張っていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

最後に国保についてですけども、これはちょっと米子市の特有の特徴としまして、収納率が低いという点、これは皆様の足を引っ張らないように米子市としても着実な成果を上げるよう努力を積み重ねていきたいと思っております。それと徐々にですけども、これまで市でやってきた取組の中でや

はり健康対策というものが、効果はあるんだろうなと思っているところでございます。これは引き続き、例え県全体でやるにしても個別に米子市としては健康対策というもの、これ例えば認知症予防もそうですけれども、そうした動きについては、しっかりと取組を進めて全体の健康保険の保険料の上昇を抑えるような政策はやっていきたいと思っているところでございます。以上でございます。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。続きまして大山町長お願いします。

(竹口大山町長)

大山町長の竹口です。まず、観光振興についてですけれども、今年は、平成 30 年は大山開山 1300 の年ということで県はもとより周辺市町村の皆さんの御協力を得ながら大山を中心になってしっかりと盛り上げていきたいというふうに考えております。常々一過性のイベントで終わらせたくないということは申し出ておまして、イベントをしっかり頑張ってお客をしていくということは、この 1300 年祭でやっていきたいと思っておりますが、それ以外に 1300 年以降も地元に残る取組として食の魅力とかを再発見するようなそういう年にしたいと思っておりますし、町民向けにはやはり大山が 1300 年の長い歴史があると、そういう文化があるということを再認識する、そういう年にしていきたいというふうに考えております。引き続き御協力をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

それから、若者の県内定着についてですけれども、私は選挙公約の一番の目玉としまして、人口減少対策、人口減少をどうにかするというふうにならざるをえずと訴えてきておまして、今年度もそういう取組を進めてきております。この若者の県内定着というのは移住定住の分野になろうかと思っておりますが、人口減少は御承知のとおり社会減と自然減があって、この若者定着というのは、社会減を止める政策だと思っておりますが、大山町としては出生率の向上も目指して、自然減の対策等もしていこうと考え、子育て支援策に力を入れております。それで、子育て世代の負担軽減というのは移住定住の施策としても効果がある面もありますし、合わせて 1 人しか産まなくていいと思った人が 2 人産む、或いは 2 人でいいかなと思っていた人が 3 人産んでくれる。そういうふうな出生率の向上になって、自然増にはなかなかならないですけれども、自然増に向けた動きも出てくるという効果があるというふうに思って、子育て世代の負担軽減というものに取り組んでおります。

基礎自治体で市町村のレベルでなかなか雇用のミスマッチをなくしていくというのは難しいというふうに考えておりますので、こういったところはぜひとも県ですとか、或いは西部地域の市町村の連携などで解消していきたいと考えておりますけれども、現状としまして、大山町の社会減、ちょっとデータが古いですが、平成 26 年度約 3 年前ですけれども、転出数が全体で約 500 人です。それで、県内と県外がそれぞれ 250 人ずつ大山町から出ています。それで、大山町から県内に転出している 250 人のうち、約 160 人ぐらいが米子市に出ています。伊木市長がおられるのでちょっと言いにくいですが、大山町としましてはやはり米子市に出で行かないという取組をしっかりとやっていきたいと思っております。それで、ここをしっかりと止めていくと、大山町としての魅力も高まると思っておりますし、米子市からだけでなく県外からも入って来ていただけるのかなというふうに思いますが、ぜひとも、他の町村でも同じような分析をすれば、町村部というのは近くの大きい市に出ているというような現状があるかと思っております。それで、米子市さんとか、鳥取市さん、倉吉市さん、境港市さん含めてですけれども、そういう大きい街というのは、県内で取りあつかうのではなくて、しっかりとその岡山、広島、大阪、東京あたりに照準を絞っていただいて人を呼び込むような施策をしっかりとやっていただきながら、大山町はこう米子からおこぼれをいただくような形の戦略を進めていこうかなというふうに考えております。それで、今年度の取組として保育料の無償化、これ県の補助もいただきながらやっておりますが、あとは給食費の補助、それから高校生の通学費助成、こういったものを矢張り早く展開をしてきております。それで、来年度の保育所の入所希望者を募っていますと、まだ正確な数字は出ておりませんが、もともと大山町に転入して来て、来年度大山町の保育園に通わせたい、移住して来たいというような申し込みが 9 月以降増えてきております。それで、この

ような施策が移住定住にもすごく効いてきているのかなというような実感がありますし、今、大山支所の周りに宅地をつくっておりますけれども、これが即完売するような状態にありました。それで、その内容も分析しますと、もともと実家が大山町で1回出ていたけど、また大山町に帰って来たいということで買われた人がかなりの数あるんですが、中には子育て支援策を見ながら米子に宅地を契約していたけど、そちらをキャンセルをして大山町に買ってくれたというのが数件あったりですか。こういう現状があります。それで、最後に県にぜひともお願いしたいのは、繰り返しになりますが、雇用のミスマッチを県全体で解消していただくということと、市町村の行う子育て支援策に更なる充実を図っていただきたいなというふうに思います。大山町として、通学費助成を行っておりますけれども、大山町には県立の高校、私立の高校もありませんが、郡部の町村というのは高校がない、或いは高校が少ないというような現状があって、どうしても大山町ですと、米子市の県立高校に通う子供たちが90%以上います。この通学費が遠いところだと年間10万円以上かかるというような家庭もありますので、この半分を今、大山町の独自の助成でやっておりますが、やはり県内でも郡部と市部の格差がありますので、田舎に住んだらだけ、頑張らなくて高校に通いなさいというのは分かりますけれども、ぜひとも、その市部と郡部の格差の部分も県の方で何とか見ていただけたらなというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

はい、引き続きまして南部町長お願いします。

(陶山南部町長)

はい。南部町長の陶山清孝でございます。まず、若者の県内定住なんですけども、先ほどから話が出ていますように郡部には高校がないんですけども、高校生は確実にいる。高校はないけども、高校生はいるというのをテーマにしながら、この3年間ほど南部町の中でばたばたしてきています。その中で高校生サークルというものを作ってくれましたし、去年はその高校生サークルのOBたちが新青年団というものを組織してくれました。その新青年団のメンバーはIターンで東京の方から来た若者や、それから地域の中で高校を卒業した若者や混成部隊です。大森彌先生が強い絆と弱い絆という、弱い絆の効用ということを何か書いておられましたけども、田舎というのは非常に強い絆なんですけども、強い絆は結局はしがらみだとか、それからなかなか変化の対応ができないだとか、決してそれが若者にとって気持ちいいものでない部分もある。弱いつながりというのは、新たな風や変化をさせやすいですけども、ちょっと心配なところもあるかもしれない。それで、南部町はそういうその強い絆、地域の中の頑固じいさんやその人たちと、その弱い絆のIターンであったり、若者たちのこの混成部隊をどうつなぎあっていくのかということのをうまくできないだろうかということを考えてみたいと思っています。まち未来科という小学校、中学校義務教育の中で地域のじいちゃん、ばあちゃんたちが地域の文化等を教えてくれていますけども、中学生では非常に立派なことを言ってくれます。ぜひ南部町に残りたいと涙が出るようなことを言ってくれるんですけども、今度高校生の特に女の子たちと話すとき、いや、私は都会に出ますという、スパッと、2、3年でこんなに変わるのかというほどきれいに気持ちが変わってしまっています。先ほどどこかで出ましたが、高校生とのつながりを、町が地域が断ち切ってしまうことがいかんのだと今頃思っています。その延長線上にやはり大学、県外に出る大学生はこれは止めることも出来ませんし、このつながりをどうやって作っていくのかということやはりポイントではないかなと思っています。それと、Uターン、Iターン、特にIターンしていただく人にはあまり強いつながりではなくて、よく言われますけども、「町長、来るとここに骨を埋めるんかって、そんな覚悟あるのかってしきりに言われますけども、これが一番辛いんです。」とよく言われます。そうではなくて軽いつながりで、2、3年すればまたどこかに行きますよぐらいなところで、お互いがいいところを取り合うようなそういう軽い関係を見出していったその結果として、ある程度定着してくれる日も出てくるでしょうし、そういう変わった新たな風が吹いてくる雰囲気の中に、Uターンだとか、都会に出て途中で帰ってきて田舎のよさを家族とも共に味わおうかと、

そういうような雰囲気が出てくるんじゃないかなとこう思っています。ぜひ県と一緒にしながら、そういう出て行った大学生たちのつながり、高校生たちのつながりをどう作っていくのかということをお力を合わせていきたいなどこのように思っています。

それと就職のことなんですけれども、私どもの工業団地も就職、工業団地の拡張、県の力強い応援で拡張したんですけど、なかなか従業員の確保が難航しております。それで、先日東京の方に南部町に来ていただいています国立音楽院に行きましたら、音楽院の子供たちっていうのはやはり音楽がしたいんだけど、音楽だけではなかなか飯が食えないわけですし、生活費が非常に厳しい、その中でも工業団地で仕事をしながらでも音楽院で勉強できるような環境が出来れば、これは2足のわらじを履くようなものですが、非常にお互いにいいですねっていう話がありました。ぜひ、もしそういうことが可能であれば、何らかのまた御支援等もいただけますとお互いにいいなど、このように思っているところです。おかげさまで空き家対策はCCRCの南部町の空き家を中心にしながらということで、現在調べました22軒の空き家改修をやって、18世帯45人に移住をしていただいています。新年度からは法勝寺高校の跡地にいよいよCCRCの青年海外協力協会との協力をいただきながら、そこで今の国立音楽院の宿舎であったり、それから障がい者の雇用の場であったり、ごちゃまぜのそういうものを取り組もうという段階に入ってきております。

色々な手立てを組み合わせながら、社会増減、人口が減る中でも社会増を何とかプラスにしていこうということに取り組んでいこうと思っています。今後も御支援いただきますようよろしくお願いいたします。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございました。日吉津村長お願いいたします。

(石日吉津村長)

日吉津村の石です。今日は国保のお礼を言えばそれで僕の役目は終わりかなと思ってきましたが、本当に正月明けてから県の標準保険料率が示されたということで、それまで恐らく上がるだろうという予測で住民に話していましたので、住民に話す機会もなくなったなということで懸念をしておりましたけれども、先ほどの知事さんの話の中で前年並みのところに収まったということで本当にありがとうございました。本当に大変な御苦労があったと思いますけれども、実は都道府県化がされるという前段で、私のところの保険料と一般会計からの入れ込みを考えたときには、都道府県化で激変緩和の措置がなければ、まず保険料が1.6倍に上がるというふうにみていましたので、このたびの激変緩和措置でもちょうど1.6倍の数字になると、激変緩和がなければということで、そういう意味では激変緩和で3万7,000円、それから前期高齢者の負担金の精算分で2万6,000円ということでしたので、ちょんちょんのところに落ち着いたということで、15日に臨時議会をして概ねこんな感じで収まりそうだといいこと言ったところ、議会も本当に安堵をしていらっしゃったところで本当にありがたかったなあといいところではありますが、これからの懸念としては、前期高齢者交付金の精算分が2万5,000円あったということですので、これは単年度ごとの精算の具合では分からないということですので、ここの部分が次年度以降の保険料に跳ね返って引き上げは必要になってくるかなという懸念はしておりますけれども、ある程度保険料の引き上げはやむを得ないという感じでこれまでできておりましたので、実は隣の方の町長さんからの御意見もあって、12月に一般会計から基金を繰り入れをして積み立てをしました。前期高齢者の交付金の精算が思うように入らなくても何とか何年かは持ち堪えられるだろうなというところに数字が収まったということを感じておりますので、大変御努力いただきまして本当にお礼を申し上げて、ただ、6年後以降の標準保険料の都道府県化については、それぞれ色々な課題がまだまだあるということではありますけれども、やはり相互扶助の観点からすると、都道府県一つなんだらうなという気がしておりますので、これからの議論につなげさせていただきたいというふう感じておるところであります。よろしくお願いいたします。

それから、移住定住については、実は地方創生では子育てを前面に押し出してやっております。そ

れで、平成8年頃からしますと、今年の人口が3,550人ということで25%の人口が増えています。けれども、小学校1校で200人前後です。20年前の2,800人の人口と今3,500人の人口で、でも小学校の子供は1学年35人200人というところですので、この子供を確保しなければならないというのが私どもの村の考え方です。人口増もですけども、子供を確保しなければならないということで取組をして、子育てがもっともっと保育もですし、小学校の空き時間もですので、そういう意味では子供たちの過ごす場所を作っていく必要があるかな、放課後の過ごし場所等を、保育園の時間外の過ごし場所を作っていく必要があるだろうな、ここに力点をおいてく必要があるだろうなというふうに思っております。それで、幸い我が村に住みたいと言って村外からたくさんの方の御意見がありますが、なかなか住宅地の供給が出来ませんので、地方創生の計画をした段階で住宅地を供給したいということを経済省の方に申しあげましたら、おまへのところは何かを考えると、バブルだというふうにお叱りを受けまして、それができずにおりますけれども、今は村内の動かない土地を塩漬けとまでは言いませんけれども、動かない土地をアンケートをとって売ってもいいという方を不動産屋さんに紹介して、それから住宅地に供給をしておるといことでありますので、地方創生の中ではそれを中心に行っておりますけれども、おかげで3年経って28軒の40歳以下の土地の取得、住宅の建築ができたのでありがたかったかなというふうに思っております。

地方創生で3年経ってみて、やはり特に私ども自治体が小さいので、雇用支援など組み立てが非常に難しいところがありますので、地方創生はある程度、何ていいますか、3年経ってみて、今年の30年には見直しをしたいと実は思っています。出来ることを伸ばしていきたいということで、大きく見直しをしたい、そんな取組をしたいと思っておりますので御理解をいただきたいと思っております。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。日南町長お願いします。

(増原日南町長)

一番高齢化率の低い日吉津村からうちに振られると辛いなあと思うんですけども、日南町は、今、高齢化率が50%を超えました。これが65歳から高齢化ということなんで、これが上がると少し高齢化率が下がるんじゃないかなあなんて期待だけはしていますけども、県内の若者定住については皆さん結構頑張ってるというふうには思っています。ただ、私マイナスの言葉を言うもんじゃないですけども、よく創造的過疎というふうなこと言っております。やはり全国的に人口が減るのはもう間違いないし、それをどのように緩やかに減らしていくかというのが一つの行政命題だなと思っておりますので、過疎になるのは仕方がないにしても、それをどのようにコントロールしながら緩やかに過疎にもっていくかということ、今、命題としてやっているとあります。それで、先ほど鳥取市さんも田舎暮らしの本の話をされましたけども、若桜町が確か5,000人以下の田舎暮らしの本の住みたい町全国8位になっているはずなんです。日南町が確か6位のはずです。ですから、多分ほかの町もあるのかもしれませんが、19の鳥取県の町村の中でそのように田舎暮らしの本の数字を当てにするわけではないですけども、それだけ人気があるということはしっかり誇っていいことだし、それはやはりしっかりPRし、過疎になるとは言いながらしっかり抵抗しているんだというふうな証ではないかなというふうに思っております。若者定住について色々施策を打っておりますけども、これもあまり競争になって、こういうふうな施策しているから、うちはこうだというふうなところを誇りあっても、あまりあれがないのでそれぞれの町村に合った、身の丈に合った若者定住策を打つべきかなというふうに、今、日南町としては考えているところです。

観光振興については、当然大山1300年とか、山陰インバウンドとか、こういうことはもう当然やるべきだと思っておりますけど、先般1月11日に、知事に雪深い中に阿毘縁という、また日南町でも一番雪が降るところに来ていただきました。本当に70センチ〜80センチ雪が降っていたわけですけども、そういうふうな世界というのもある意味ではハンディキャップと捉えていくのか、一つの先進性というか、特異性と捉えていくかによって、捉え方が違ってくるというふうに思っておりますので、や

やはり鳥取県は鳥取県で、それから市町村は市町村でこれもやはりそれぞれの特異性を活かした観光というのを打ち出すということが、鳥取県に行ったら何かある、いいものがあると、例えば本当の日本があるというふうなところが訴えかけられればいいかなと思っております。

それから、国民健康保険税につきましてですけれども、本当に、これについては先ほどから幾つかの町村長さんがおっしゃったように、非常に高い評価をさせていただいているところであります。日南町のように国保率が高くて高齢者が多い所では国保というのは大きなファクターだというふうに思っております。私の方の、もう少しで選挙というふうに言われておりますけれども、幸いにも町の方でのこれまでの積み立てがありますので、4年間は国保税と介護保険料は据え置くと、実質的には途中で10%の消費税の上乗せがあるわけですので、据え置くということは最終的には2%下げることになるというふうに思っておりますけれども、実際8%から上げておりませんので、実際的には5%下げたという形になるかなと思っておりますけれども、そういう中で一つやはり福祉保健部長さんにもお話したことがあるんですけども、当然そういうふうな中で長期的なシェア、国保の会計というのは自分が長寿のときだけよければとりあえずそれでいいということではないと思っております。その人たちが、町民の方々、市民の方々が住む間、安定的な基盤を作っていく必要があるというふうに考えますと、今、奈良の方では、既に全県一本化ということで、完全一本化ということで計算をされております。やはり鳥取県としても将来的、これを何年後にするとかいうふうなことはまた別の論議だと思っておりますけれども、それぞれの市町村の財政事情等もありますので、そういうことも踏まえた、早めの論議というのが必要であって、それを見据えたそれぞれの市町村は国保会計、社会保障関係を練っていく必要があるのではないかと思っております。これは当然前段に申しましたように、鳥取県の努力というふうなことを評価した上で、改めてそういうことも始めていく必要があると、せっかくやっとならんと済んだところでまたそんなことを言うのかと担当課の方々は思われるかもしれませんが、そういうものではないかなというふうに思うところであります。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。鳥取市長、話し足りなかったところを、いいですか。

(深澤鳥取市長)

いや、特にありませんが、国保につきましても各市町村長さんと同じような考えですが、やはりこれはスタートであって、これから30年度の検証もしながら、将来を見据えて、例えば負担水準についても統一化を図っていくとか、何か具体的な方向性も共有しながら、この制度を安定した制度として運営できるように、みんなと一緒にになって取り組んでいけたらいいなと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。境港の副市長よろしく申し上げます。

(清水境港副市長)

国保についてありがとうございます。それと今年度はよくまとめていただいたなということで感謝しておりますけれども、国保の医療の高度化、これによりまして、今までの単独の市町村では保険料がすごく跳ね上がったたり、そうしたことも考えられることで、都道府県化ということになっていることを考えますと、医療費指数が、うちはすごく高いんですけども、特にジェネリックをやってないとか、保健事業をやってないということではありませんで、湯梨浜町長さんもおっしゃられましたけど、色んなケースがあるということ念頭におかれて、医療費指数反映ケース、これについて1でありますと、当然今までの市町村単位、被保険者数の単位を基に持っていく方法であると思えますし、0ということでもあります、鳥取県下全部で支えていく方法だと考えておりますので、この辺を今後しっかり議論をしていただきたいと考えております。よろしく申し上げます。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。北栄町の副町長お願いします。

(西尾北栄副町長)

発言の機会をいただきましてありがとうございます。若者の県内定着、実は総合戦略の一つの柱のドリーム農場という、いちごを生産する会社は地域おこし協力隊が生産の現場にあります。いずれも首都圏から来た3人の40歳未満、40歳から下の職員が来てくれて、それで配偶者と子供を連れてということなので、その部分だけ見れば社会増なんですけども、町全体から考えるとなかなかそういった状況にはなっていないというところであります。先ほど琴浦町長がおっしゃったような企業ガイドを成人式のときに配ったりとか、そういったことはやっておりますけれども、あともう一つ、鳥取中央育英高校と地域探求の時間という取組をさせていただいております。そこで将来、一度外に出ても将来は帰ってきたいという人材を育てるという高校の姿勢それに共感して町としても協力してやっているとあります。

それから、観光振興については山陰DCにおいて、うちの町の中で、蜘蛛ヶ家山という小さい山があるんですけども、そこから星空を見るというのを一つの商品にさせていただきました。一つの磨き上げができたかなと思って感謝をしております。ありがとうございました。

最後に国保についてですが、大変御苦労があったと思います、ありがとうございました。本町の場合にはその試算では下げられるんですけども、その激変緩和措置がなくなってしまうと、うちは引き上げざるを得ないような状況になります。ですから、その激変緩和を見越して今は据え置きをしないといけないのかなということで昨日、町長と相談をしたところです。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。江府町の副町長お願いします。

(影山江府副町長)

若者定住ということなんですけど、なかなか今こういった高い大学への進学率を考えますと、大概都会の方に出て行かれたのが状態でございます。江府町もそういった状況なんですけど、それを何とか江府町に帰って来ていただける、そういった施策というものを今後展開していくのかなという、一つは他県でもやられておりますけど、無利子奨学金というような一旦出られた方が帰ってこられたときに県でもやられているようでございますけど、そういった町の独自の取組をするとか、あと、私ども中学校1つでございますけど、中学校のときから、アントレプレナーシップでございますね、研修ということでそういった取組をしながらやはり企業的な教育そういったものも取り入れながら、いつかは江府町に帰って来ていただける、そういった取組もやってみたいなと今思っているところでございます。

それから、国保制度につきましては今色々御意見があったかと思っておりますけど、もともとの趣旨から言いますと、やはりこれ県下統一というのが一番いいのではないかなと思っております。ただ、どうしても国保税、国保料についてのそれぞれの市町村でのいわゆる格差といいますか、違いがございますので、できましたら何年か後には、いつには統一するというような方針の中で、それぞれの自治体で緩和措置が少しずつ、激変緩和ができるような体制にさせていただければありがたいなと思っております。以上でございます。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。日野町の副町長お願いします。

(山口日野副町長)

日野町です。色々お騒がせしております。若者の定住という意味で日野町随分人が外に出ていくんですが、昨年はなぜか減りしろが、社会減が5でしたかね、何か流れが都市部から日野町辺りも来ているのかなということをおもっています。調べてみるとUターンした人とか、シングルマザーの方とか、色々あるんですが、やはりつながりがある方が帰って来ていただいています。そんなことで、住民票は出せないんですけど、日野町と関わりのある人にこんなカードを発行して、ふるさと住民票と言うんですけど、こんなのを発行してつながりを大事にしよう、深めようということで資料を送ったり、意見を求めたり、まちづくりの、しています。今200ぐらいになったので、これが300になると人口の1割ぐらいがふるさと住民と合わせて日野町を考えるというような人たちができるかなというふうに思っています。今、関係人口ということが言われています。まさに我々はそのを増やそうと努力しています。最近、日野高校の高校生をやたらマスコミに取り上げていただいています。JK課っていうんですけど、JKって女子高ということではなくて地元改革と彼ら名乗ってまして、まさにまちづくりの主体として彼らに参加してもらおうということで色々提言をしてもらっていますが、その課長が今度専門学校に就職するんですけど、もう早くもふるさと住民となって帰ってきたいと、日野町の福祉施設に就職したいなんていうことを言っていました。若いうちからそういう参加をさせてあげばこうつながりを持って関わってくれるかなっていうことをおもっています。

観光のところの一つだけ。たたらを、ぜひこの機に大きく飛躍させたいと思っておまして、ぜひ日野郡の山頂で大山1300年を機にたたらを注目させるような取組をしたいと思っておます。それで、鉄山師として栄えました近藤家、こちらの住宅が実は今、県教委の御支援で、県の指定文化財として諮問をいただいています。早くいけば今年中にも文化財になると思おます。次はそれを活用するというを御当主含めて考えたいと思おます。山陰合銀の根雨支店も、これも非常に立派な建物で90年経つんですが、これもいい具合に活用して根雨の歴史ある町並みを活用したい、売り出したいなど思おます。本来文化財というのは教育委員会の仕事でして首長部局はできないんですけど、私、今、こっそり、ひっそりやっているんですけど、ぜひ堂々と文化財の仕事を首長部局でできるようになればと、そういう動きを期待しています。

あと、国保は皆さんと御意見一緒ですが、保険料はさっき北栄町さんありましたけど、私のところも下げないつもりです。これで見ると下げられるんですが、会計からの繰り入れを減らしたところで維持をしたいと思おます。なかなか年によって大きく変わりますので、まずは様子を見た上で保険料水準を統一されるかっていうことも議論になるでしょうし、しばらく様子を見させていただきたいと思おます。以上です。

(小倉元気づくり総本部長)

ありがとうございます。その他、よろしいですか。それでは知事お願いします。

(平井知事)

ありがとうございます。皆様から熱のこもった御議論をいただきまして本当に感謝を申し上げます。この会議も始まったところは少し肌寒かったんですが、皆様の熱のおかげで暖房もようやく効いてまいりまして、少し温まってきたような感じがいたします。総じて言えば合意がほぼそれぞれつきまして得られたと思おますし、方向性も大分共通だなということが分かってきたと思おますので、ぜひ、今日の会議を今後それぞれ持ち帰っていただきまして取組を進めていただければと思おます。具体的には、一つは若者定着のことでありますけれども、これも仕事の企業パンフレットをつくったり、或いは高専なども含めて紹介を強めようとか、色々具体的なお話もございました。そういうマッチング機能を高めるために県でも県立ハローワークを東部、中部、東部は八頭も含めて設置をしようと思おます。これに先ほどもお話がありましたが、色々親御さんなり家族なりの御相談を受けるだとかいうこともあり得ると思おますので、なお一層改善をして職業マッチングを強めることも県としても取組ませてもらいたいと思おます。

また、合わせてふるさと教育の大切さ、高校、中学のときは特にいい子なんだけども、高校になるとだんだん心が離れて大学出たら帰って来ないというような、総じてそんなお話にまとめられたのかなと思います。ですから、中学でもそう、私ども高校を預かっておりますが、高校でもそうでありますが、そうしたところで地元の企業さんだとか、働き口だとか、こういうもの紹介できるように場をそれぞれで作らせていただくのも大事なんじゃないかなと思いますので、御協力をいただければと思います。そういう中、長期有償型のインターンシップ、あるいはワーキングホリデー、この辺を、事業化をしたり拡張したりということを新年度やる必要があるなと今日思って伺っておりました。それを活用していただければ、若干アルバイト感覚で楽しみながら暮らしてみたり、仕事してみたりということもできようかと思ひますし、人間関係を企業さんをつくることにも役立つのではないかなと思います。また、廃校を活かしてテナントといいますか、企業を入れたり、活用するという事など活力増進のためのお話があったり、林業を振興させていくことの意義についてもお話がありました。これらも新年度事業で中山間地対策や林業関係拡充してまいりたいと思ひます。

こういう地方創生絡みのことも含めて、県でも2月1日に臨時議会を開くことを今検討してまいりて、国の各種予算そういうものの補正をし、前倒しをして、できるだけ早く実行性あることを目指してまいりてと思ひます。また、観光関係では大山1300年のお話がございました。若干ではありますけども、中山もまいりておりますので、実は東、中、西それぞれまだ共通理解得られてないところもありますので、大山1300年祭の今の状況、山の日のことにつきまして、この後、御説明もさせていただきたいと思ひますが、各皆様からもお話がありましたように、問題は一過性の旅行客じゃない、むしろその後につながっていくような食の魅力や観光ルートの開発、たたらなども含めてやっていくことではないかと思ひますし、我々の郷土のプライドを今一度高めるそういうチャンスにもなるのではないかと思ひます。ぜひ、そうした意味で展開を図っていただければと思ひます。また、子育て施策等々のお話もございましたが、これ今、国が制度改正を目指す動きによろやっとなつてまいりました。多分、一部鳥取県全体でやっていること、市町村と一緒にやっていることに国が追いついてくるのだと思ひます。この辺も状況を見ながらまた御相談をさせていただき、フォローアップをしてまいりてと思ひますが、この子育て施策が間違いなく観光の魅力と合わせて移住者を引き込んでくる、そういう原因になっていると思ひます。ですから、自信を持ってここは前に進めていきたいと思ひます。私は米子に住もうが大山に住もうがどうでもいいわけでございます、どこでもいいから県内に帰ってきていただけるように、私どもとしては目指してまいりてと思ひます。

あと、国保につきましては、皆様からありがたいお言葉をいただきました。今日のお話を総括すればソフトランディングできそうだということだと思ひます。ただ、重ねて何人からかお話がございましたとおり、まだ、国保料の統一化をどうするかとか、或いは諸制度の問題、それから大切なのは医療費総額を抑制することであるとか、また、高額療養費制度があつて湯梨浜町、境港市のお話がありました、ある程度は緩和できて国保に影響を与えないような制度はできているんですが、ただ、せっかく広域化するのだから、若干その保険料統一的な要素というものももう少し入れられないかとか、そういうお話もありました。国保の協議会を皆様と一緒につくりましたので、この場でこの協議は継続させていただきたいと思ひます。更なる改善を目指していきたいと思ひますが、詳細、お尋ねのこともございましたので、部長から若干補足をさせていただきたいと思ひます。

(小倉元気づくり総本部長)

それでは、中山所長。

(中山西部総合事務所長)

お手元に観光振興についての資料2と、こういったパンフレットと1枚物がおありかと思ひます。パンフレットは開いていただいて、私の御説明とともにご覧いただければと思ひます。ざっくりとした予定でございますけども、来年の5月～11月の間に主に県の中・西部を中心に大山という山を舞台にしながらいイベントを展開する、催しを展開するというのが大きなイメージでございます。資料の1

ページ目には主なイベントとしまして、これは第1章～第4章と掲げておりますが、それぞれのステージイメージ、月に合わせたステージイメージを掲げております。山開きから山の恵みまでイメージをいたしまして、それぞれ週休行事もございますけれども、SEA TO SUMMITの10周年記念版ですとか、水木しげるロードのリニューアル、そして、山の日の全国大会と1300年祭の記念式典と、それで、最後に大山ワンダーフォーラムという形で大山を中心としたイメージの展開を、年間を通じて行うことにしております。

掲げてはおりませんが、この間、中・西部では色々な催しもしていただくことにしております。1つが刀剣というネタもございます、例えば倉吉市、米子市、それから日南町でも刀剣を展示する展示会を、それぞれ時期をずらしながらやることとしております。合わせて、1枚の山の日の全国大会というチラシを入れておりますが、8月の10、11日でございますが、米子・大山を舞台にいたしまして第3回の山の日の記念全国大会をこの大山1300年のメインイベント、大きなイベントとして展開することとしております。県内外から1,500～2,000人程度、本当に山を愛する方、山岳愛好家のみならず自然愛好家も多く訪れる大会でございます。以前は、長野それから栃木で行われましたが、西日本では初の開催でございます。この大山という山を舞台にしながらその山の素晴らしさ、とりわけ鳥取県の自然というのは山を媒介にしながら山の恵み、それから山から流れ出る海の恵み、そういった鳥取県の自然全体の恵みをアピールするチャンスではないかというふうに思っておりますので、ぜひ鳥取県内、全市町村の御協力を得まして、この山の日をはじめとした大山1300年全体を盛り上げてまいりたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

(小倉元気づくり総本部長)

それでは、福祉保健部長をお願いします。

(藤井福祉保健部長)

国保の関係でございますけれども、先ほど来、各市町村からもございましたが、今後の30年度スタートを切った後に、今後に向けてどういうところになっていくのかというところを見込みをしっかりと立てながら市町村とともに検討していきたいというふうに考えておりますが、ここの保険料水準の関連でいいますと、先ほどもちょっと御説明いたしましたが、医療費の反映ケースの関係でありますとか、収納率、更には算定の方法を3方式ですとか、4方式、まだ各市町村での違いもございますので、そういう点を踏まえて協議をしていきたいと思っております。先ほど御紹介ありましたが、現在、全国的に見ますと大阪府あるいは奈良県あたりが、これも来年4月からすぐというわけではないですが、具体的に期間を区切った統一化に向けての準備を進められていると伺っておりますので、そういうところの状況もよくお聞きしながらというふうに思っております。

また、実際の運営の中では、前期高齢者交付金あたりが非常に大きく動きますが、これが31年度まではまだ各市町村単位での精算となっております。32年度以降は、国、県全体での精算となりますので、その辺りも見据えながら御相談をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(小倉元気づくり総本部長)

それでは最後に、森安町村会長様、御挨拶をお願いいたします。

4 閉会あいさつ

(森安伯耆町長)

去年の7月から県の町村会長をしております伯耆町の森安です。今日、こうやってまだ新年間もない時期ではありましたが、各市町村長さん、知事のもとに揃われて、当面の課題について意見交換をすることができました。難しい課題もありましたし、前向きに解消していく課題もありましたし、でも、その中で地方創生という言葉が、ともすれば、ややもすれば薄くなってきた時期ではありまし

たけども、やはり、知事をはじめ県の幹部の皆さん、それから私たち市町村長の中にもキーワードとしてしっかり生きておりますし、そのことはやはり確認をしながら進めていくことがこの人口が減少する時代になっても持続的で魅力のある地域、そういった地域をつくっていくんだなということを改めて感じた2時間でした。

ぜひこれからも、こういった機会を通じて県と市町村がより共通認識を深めながら、この難しい時代に当たっていけるように頑張っていかないといけないなと思っております。知事のお勧めのオンリーワン、ナンバーワンのこの1年になるようにしっかり頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。今日はありがとうございました。

(小倉元気づくり総本部長)

それでは、これをもちまして第2回県・市町村行政懇談会を終了させていただきます。本当にありがとうございました。